

奈良県オリジナル酒米‘なら酒 1504’の試験醸造

～‘なら酒 1504’（愛称「奈々露」）で造られた清酒が楽しめるようになりました～

当センターでは平坦部向けの奈良県オリジナル酒米‘なら酒 1504’を開発し、2024年に合計6.32haのは場で試験栽培を実施しました。得られた酒米を用いて県内16の醸造会社が試験醸造を行いました。

1. 背景と目的

‘露葉風’は現在、全国で奈良県だけが奨励品種に指定している酒米品種ですが、中山間部向けの早生品種で、平坦部での栽培には適していません。

そこで、当センターでは2012年から本県平坦部での栽培に適した酒米品種の育成に取り組み、2024年4月26日に‘なら酒 1504’を品種登録出願（第37411号）し、同年8月28日出願公表されました。

2. 研究成果の概要

2024年産の‘なら酒 1504’について16の醸造会社から試験醸造の要望を受け、斑鳩町、田原本町、広陵町の3地区5名、計6.32haのは場で現地試験栽培を行いました。

‘なら酒 1504’の生育期間中は、生産者、奈良県酒造組合、奈良県農業協同組合、県庁、農林（業）振興事務所および農業研究開発センターによる現地検討会を開催し、生育状況および病害虫の発生状況の確認を行いました（図1）。

現地試験栽培では、当センターの‘ヒノヒカリ’と比較して、出穂期は8月24～25日で4



図1 現地検討会の様子

日程度遅く、成熟期は10月6～8日で同程度となりました。平均稈長は90.5cmで2cm程度長いですが、倒伏はありませんでした。平均収量は、479kg/10aで19kg/10a少なく、農産物検査の結果は全て1等となりました。2024年産では30tの玄米が生産され、要望のあった16社で試験醸造が行われました。

3. 実用化に向けた対応

‘なら酒 1504’の生産は現在、奈良県内のみ限定しています。

奈良県酒造組合では‘なら酒 1504’の米およびこれを用いて醸造された純米酒の愛称を「奈々露」と定めて商標を取得されました。

この「奈々露」と表示された清酒については、2025年4月5日にお披露目会が行われ、酸味があり、若々しいイメージのお酒との評価を得ています。また、この日より一斉に販売が開始されました（図2）。



図2 お披露目会に並んだ「奈々露」の清酒

試験醸造ということもあり、2025年の新酒の生産量はまだまだ少なく、既に売り切れている銘柄もありますが、作付け面積は徐々に拡大する予定です。店頭で見かけられたら是非ご賞味ください。（栽培・流通科 小林幹生）

奈良県農業研究開発センター
ニュース vol. 168

2025年6月発行

編集発行 奈良県農業研究開発センター
TEL 0744-47-4491 (代)
FAX 0744-47-4851
URL <https://www.pref.nara.jp/1761.htm>
印刷 株式会社春日